

2.6 2003 年水俣水害 ―住民アンケート調査から―



災害経過の概要

- 水俣市で2つの土石流
集地区15人 新屋敷地区4人 死亡
- 時間経過

1. 降雨再開 (3時台豪雨)	0時50分頃～
2. 気象台大雨洪水警報発令	1時55分
3. 土砂災害危険度判定情報(警戒)FAX受信	3時14分
4. 土石流発生	4時15分(新屋敷) 4時20分(集)
5. 水俣市避難勧告発令	5時20分

調査概要

調査対象地域 宝川内 集地区 (被災地域)
宝川内 丸石・新屋敷・本屋敷地区 (非被災地域)

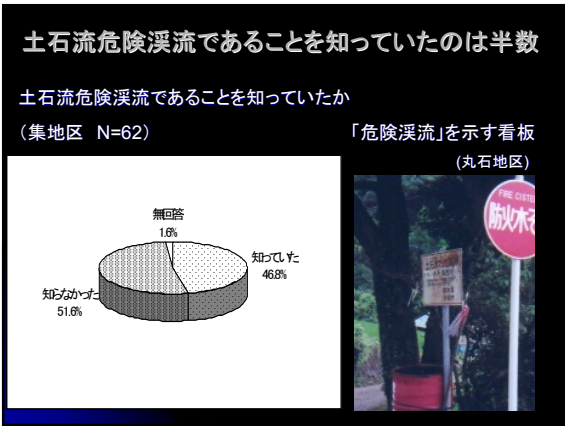
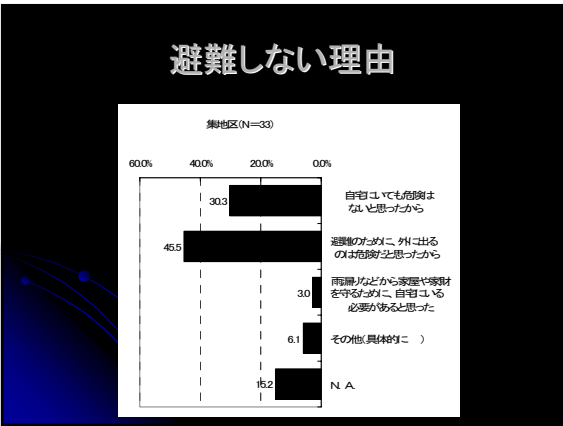
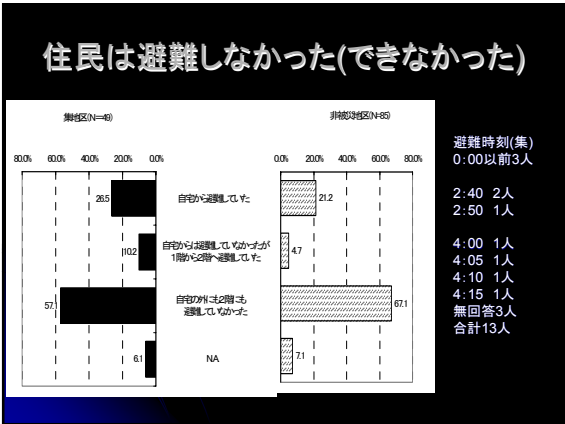
対象者 20歳以上の男女

抽出方法 悉皆調査 (エリアサンプリング)

調査期間 平成15年12月13日～26日

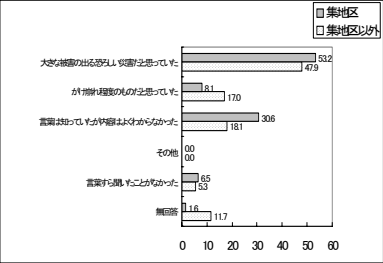
調査方法 訪問面接法および留置法
(調査票は、集地区用と丸石・新屋敷・本屋敷地区用の2種類を作成し、また、世帯に関する調査票と個人が回答する調査票を用意した。そして、各世帯に対して、世帯に関する調査票を1票、個人が回答する調査票を家族の人数分配布し

有効回答数・回収率 集地区 76.5% (62票)
丸石・新屋敷・本屋敷地区 67.6% (94票)



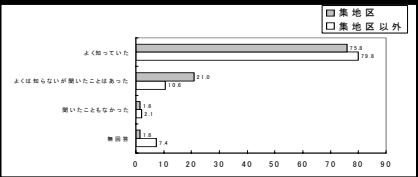
怖さを知っていたのは住民の半数

土石流の意味に関する認識

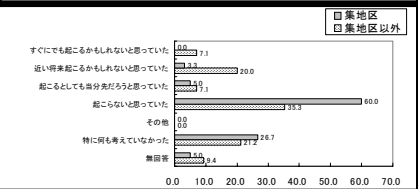


他人の心理

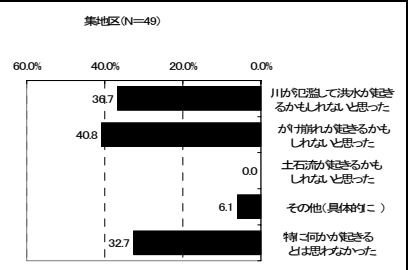
1997年出水 災害認知度



自集落における 土石流への危 惧



土石流は起きないだろう(今回災害時)



対策(住民編)

- 防災教育、防災訓練などを行い、土砂災害（土石流）の知識を周知
「洪水と土石流はセット」である
- 「他人の心理」と思わせない対策
- 避難勧告の場合には、避難場所も指定する
- 情報手段の確保
落雷対策のラジオ 防災無線戸別受信機

新たな土砂災害警戒情報の活用

- 土砂災害危険度判定情報と避難の連動
広島市の例 土砂災害警戒区域において、危険度判定情報を避難がリンク。水俣災害同日に実際に避難勧告が発表され、住民が避難した。
- 土砂災害警戒情報と市町村防災無線の自動接続放送で避難の呼びかけ
- 自治体職員にもわかりやすい情報提供
情報過多の問題
（「より早く、より細かく」という方向性の盲点）